個別ケア重視へ舵を切られた通所介護への転換

全国老人福祉施設協議会
介護保険事業経営委員会委員長
桝田和平氏

12年改正で問われた通所介護の主たる課題は、リハビリテーション機能の強化と介護保険サービスとしての必要性という2点といってよい。

リハビリテーション機能の強化では「個別機能訓練加算」の見直しが行われた。通所介護はこれまでの集団処遇的なケアのあり方から個別ケア重視のサービスへ大きく転換が図られたことを見逃してはならない。

これまでのデイは、決められた所要時間内の日課に従って、利用者みなが同じ流れに従ってサービスを受けていく、というものだった。

個別リハビリの強化において通所リハビリテーションとの違いは、通所リハがリハ職による15～20分程度のマンツーマンによる個別リハを必要とするのに対して、通所介護では生活機能の維持向上が主眼で、必ずしもPTやOTなどのリハ職である必要はなく、5人程度までの同時訓練が認められている。リハビリの目標も、自立支援に向けて、「ズボンを自分ではく、脱ぐ」など日常生活における具体的な行為ができるようにすることとされる。

12年4月時点では、変更になった個別機能訓練加算を理解ができずにいた事業所も多かったが、改定半年を経て理解と対応が進んできている。

従来の「6時間以上8時間未満」は、新たな「7時間以上9時間未満」へと時間区分が変更されることが多い。その場合、最低どれだけの時間のサービス提供を行うのかが問われた。これに対して、国は「7時間を30分超えていればといった話ではなく、必要なサービス提供時間は、事業所全体ではなく、利用者一人ひとりのケアプランや通所介護計画に基づいて決められるもの」という考えを示している。

12年改正によって、同じ時間帯の利用者は同じサービスというこれまでの金太郎飴的なデイサービスは、大きく様変わりをした。時間区分での変更への対応にとらわれて、そこまで十分に理解ができていない事業者がまだ多い。

しかし、「6～8」を「7～9」にシフトしても、報酬単価は高くなるが、1時間当たりの単価は下がる。介護保険事業経営実態調査において通所介護の収支差は他のサービスに比べて大きかったことが、報酬の引き下げにつながっている。

事業者は、短時間に切り替えるのか、長時間にシフトするのか、あるいは両方やるのかが問われている。

長時間へのシフトは、「7～9」において9時間までサービス提供する体制を取るかどうか。これは、最大12時間までの延長サービスの提供を行うかどうかにつながる。

12年改正のサービス時間の延長は、家族介護者の負担を軽減することが目的であるが、介護職や利用者がその対応を求められるとともに、事業経営にも影響を与えている。

職員の勤務時間が長時間化した。通所介護においても早出や遅出を設けシフトを組むようになったが、足りない部分の対応がある。また送迎の専任者を置くことも増えている。何とか収入を落とさずにきても支出が増えた事業者が多い。

要支援や要介護1・2など家の中であれば自分のことができる人は、暗くなるまでに帰りたいという思いが強い。長時間化は、夏場はよくても冬場が問題になる。ひと月に使えるお金の範囲で、短時間化して回数を増やす方法も検討すべきだろう。

次期の15年改定でデイサービスはさらに機能強化が図られると思われる。楽しみのためだけのデイは介護保険に似つかわしくないと言われるだろう。バスの送迎があり、お風呂に入って歌を歌ってご飯を食べる温泉の保養サービスがあるが、これなら数千円ですむ。こうした高齢者サロン的な対応しかできないデイであれば、今後は市町村でのサービスや自費サービスに切り替えられる可能性もある。

在宅でも施設でもサービスの質の評価が導入されるだろう。報酬のあり方は、基本料金は低く抑えて介護の成果によって加算を付けていくというやり方だ。

こうした展望のもとで全国老施協では、いままでのデイのあり様を脱皮し機能強化したデイにすることで生き残りを図ろうと、事業所の研修に注力している。

検証 12年報酬改定

サービスだけなく事業のあり方にも見直しが求められた

日本在宅介護協会
東京支部　幹事
小林航太郎氏

今回の通所介護の報酬改定では、全体的に言えば、特に小規模や短時間サービスを提供している事業者にとって、有利な改定になったと言えるだろう。また、地域区分が見直されたことで、東京都を中心に都市部で事業展開している事業者にとっては、報酬面での恩恵が大きい改定だった。ただ、今回の改定でサービス提供の時間区分が見直されたことで、利用者や働く人たちの生活のリズムに影響を与えたという面では、一概に良い改定だったとは言い難い部分もある。

時間区分の見直しでは、多くの利用者が6－8時間から7－9時間にシフトした。個人的には、これまでより長い時間を希望する利用者は、それほど多くならないのではないかと思っていたが、蓋をあけてみると、大半の利用者が7－9時間に移行した。これは本人の希望もさることながら、家族の意向が強く働いたのではないかと感じている。

それに伴い、事業者のほとんどがサービス提供時間を延長して対応しており、この延びた時間でいかにサービスの付加価値を付けられるかが、今後、事業者に問われてくる部分になるであろう。

また、今回の改定では人員配置基準も見直されており、サービスの中身だけでなく、事業のあり方そのものについても見直しが求められた。事業者はスタッフの出勤時間、送迎の手配、サービス提供体制の最適化を何度もシミュレーションすることになり、4月時点では、勤務表の作成なども含めて相当な混乱があったのも事実だ。ただ、自分たちの事業をもう一度振り返るという面では、今回の改定がよい機会になった部分もある。

一方で、スタッフには出勤時間の変更や勤務時間の延長など、かなりの負担をかける部分があった。さらにデイサービスが時間変更したことで、デイの送り出しの時間が早まり、通所介護だけにとどまらず、訪問介護のヘルパーの働き方にまで影響が出るなど、人材確保が求められる中で、現場に無理を強いる改定になった面もある。

個々の話で言えば、首都圏を中心に通常規模のデイを展開している弊社（ケアサービス・東京都大田区）の場合、利用者1人当たりの収入は、処遇改善加算を除き、改正前と比べて4％増加している。要因は利用者の9割が7－9時間へ移行したことと、地域区分が見直された部分が大きい。

今回の改定では通常規模の報酬単価は、6－8時間から7－9時間に移行した場合、要介護度別に1・9～5・6％アップするので、その平均値と同じ分だけ上がったという実感がある。

一方で5－7時間に移行した場合では、報酬は8・8～11・1％ダウンするため、大幅な減収になっている。仮に利用者が増えたとしても、10％のダウンをカバーするのは難しく、そうした面から新たな加算の取得を検討している事業者も多い。従来の個別訓練加算Ⅰが基本報酬に含まれたことで、新たな個別機能訓練加算ⅠとⅡをどのように取得していくのか。単に職員の配置だけでなく、サービスの内容も変えていく必要があるため、そうした部分で工夫している事業者が最近増えてきている。

報酬上では引き続き小規模が高く評価されているため、私達の会社のある大田区だけで見ても、この間、定員10人以下のデイサービスが急増している。また、地域区分の見直しにより、都市部の単価が引き上げられたことにより、4月以降、その傾向はますます強まっている。

一方で利用者のニーズは多様であり、少人数の方がいいという利用者もいれば、たくさんの人と関わりたいという利用者もいる。医療制度改革で在院日数が短くなり、医療的な処置が必要な方々が在宅に戻ってくる中で、地域の資源として、これだけ数を増やしてきたデイサービスが、その受け皿的な役割を果たしていく必要も出てくるだろう。

その中で、自立支援に向かうのか、家族支援に向かうのか、特化する形やマルチに行う形など、ニーズを見極めながら自分達の特色をどのように出していくかが、今後、事業者に問われてくることになるだろう。

（13面に続く）

デイサービスでの取り組み事例

タッチパネルで認知症予防

医療機関での導入実績も

「デイサービス風太」福岡県久留米市

高齢者がタッチパネルに向かい合いゲームをしている。しばらくすると本日の結果が表示され一喜一憂する―。認知症予防トレーニングに力をいれる「デイサービス風太」（福岡県久留米市、浦直樹社長）での作業療法の一幕だ。システムに搭載された各種ミニゲームは、それぞれが思考力・計算力・注意力・視覚探索力・記憶力に対応しており、蓄積された日々の成績変動により認知症の早期発見にも役立つ。操作が直感的で、キーボードやコントローラー操作が苦手な高齢者でも、すぐに没頭できる。「認知機能向上システム」（監修：高島脳神経内科、共同開発：長崎大学工学部）として、長崎市のベンチャー企業であるデジタルメディア企画（長崎市、小松喜房社長）が開発した。

デイサービス風太
浦直樹社長

デイサービスで早期発見、医療機関で早期治療

認知症は日頃の認知症予防の取り組みと、早期発見、適切な治療が必要。日常的に高齢者が通うデイサービスにおいても、すでに認知症予防トレーニングなど様々な取り組みが行われている。

タブレット端末やタッチパネルディスプレイを使用する「認知機能向上システム」もそうした考えに沿って開発されたシステム。レクリエーション感覚の作業療法として取り組むことで「認知症予防ができるのはもちろんのこと、蓄積データ（成績）の分析がレーダーチャート表示されるなど、認知症早期発見にもつながる。

日々高齢者が取り組んだ利用者ごとの成績変動で、各種機能の衰えのおそれがあると、画面上でアラートする仕組みもある。ソフトは脳神経内科医の高島秀敏氏が監修した。

「介護の現場で早期に認知症の疑いのある利用者が分かれば、医療機関への受診もスムーズになる」とデイサービス風太の浦直樹社長。

同システムは、長崎市介護予防事業としても採用されており、医療機関への導入実績もある。

高齢者本人の評判も上々だ。「今日はじめてだけど、難しくないよ」実際にゲームに取り組んだ女性利用者が、にこやかに話しかける。iPadにも対応しているので「拡大する」「カメラ機能で自身を画面に取り込む」「音声を聞き分ける」などの直感的に訴えかける仕組みのゲームもできる。「今日はiPadをしてきたよ」と自慢げに家族に話す利用者もいる。若者のモノと思われがちなデジタル機器は、意外と高齢者への親和性も高いのではないか。介護人材不足が言われる中で、こうした機器活用は有用かもしれない」と浦社長は、デイサービスでの取り組みの感想を述べる。

タッチパネルは高齢者にも操作しやすい

初めてでも熱中できる

デイサービス（グリーン・レーベル多摩川）（東京都大田区）

ウォーターベッド導入でリハビリさらに充実

管理者の板場氏

昨年10月1日にオープンした通所介護「グリーンレーベル多摩川」（東京都大田区）は、PT2人常勤、医学的根拠に基づくリハビリサービスを提供し、着実に成果を上げているという。同所は日本介護福祉グループ（茶話本舗）が新しいスタイルのデイとして打ち出した直営店である。

「当所では利用者の身体機能を維持するのではなく、向上させることを目的としています。キャッチコピーは一般の人にも分かりやすいよう〈歩くを科学する〉〈歩けるを提供する〉にしました。トイレに行きたい、居間で食事をしたい、旅行に行きたいなど歩くことで得られる行為は人間の根源的な欲求。歩けるようにすることはリハビリの基本です」と同事業所のコンセプトを語るのは管理者で理学療法士の板場一訓氏だ。

サービス提供時間は1クール3時間30分。午前、午後10人ずつに分かれ、利用者2人に対し職員1人が援助する。バイタルチェック、ウォーミングアップに続き1時間30分の個別メニューが組まれている点が大きな特徴だ。

「利用開始時にPTが身体機能を20種類以上の評価法でアセスメントします。バイタルはもちろん、筋肉量や左右の手足機能などを病院と同様の機器を用いて測定。その結果をふまえ利用者個々にプログラムを組みます。定期的にそれらの判定を繰り返し、リハビリの効果を検証しています」（板場氏）。

個別メニューはマシンによる機器運動、職員との会話によるコミュニケーション、マッサージなどがあるが、他の事業所との大きな違いがウォーターベッドを使った療法。温かく柔らかい寝心地で、気持ちがリラックスする。ぜひ毎日続けたい」と絶賛する。

事業所内には季節に合わせて音楽が流れ、250円払えば、上質なお茶、紅茶、コーヒーなどが何杯も楽しめる。そうしたサービスは運動器機能に加え、聴覚や、味覚など五感全てをリハビリするというのが同所の方針だ。

「利用者の状態を判定すると、多くの人の身体機能が向上してます。最初車いすで来られた要介護4のご利用者が、2カ月のリハビリで自立歩行ができるまで回復されました」と板場氏は同所のリハビリ効果を自信をもって語った。

リンパの循環を良くし、リラックス効果も

コミュニケーションも療法の一つ

動きが悪くなり、痛みが自覚できないと床ずれの原因にもなります」と「アクアヴィーナス」の機能に期待を寄せる。

実際利用者をインタビューすると「体が水で揉まれている感

製品の問合せ☎（代理店・デイサービス風太）092・30・3322。20インチモニター（5年リース）、8000円／月～。

“その場で記録、その場で共有”転記作業はもう不要！
一括作成機能でらくらく操作！写真記録で伝わる記録へ！

小規模事業所様から大規模事業所様まで導入実績あり

ファーストケア
Portable
ポータブル 通所版

経過記録　食事水分　バイタル　排泄　入浴

施設版アプリも大好評！

App Store からダウンロードしてすぐに体験できます。
カテゴリ「メディカル」「ファーストケア」で検索

ご成約のお客様 iPad mini プレゼント!
「広告をみて」とご連絡ください！
iPad mini(1台)すぐ使えるようにしてお届けします。2013年2月末まで

iPad、iPad mini は米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

他社製品をご利用中でもお気軽にお問合せください
株式会社ビーシステム
〒215-0021神奈川県川崎市麻生区上麻生1-5-2
日土地新百合ヶ丘ビル4階
【TEL】044-959-5885　【FAX】044-959-5886
【ホームページ】http://www.fc-soft.jp

デイサービス施設向け
ウォーターマッサージシステム
25%節電 節電機能搭載　スクリューノズル
Aqua Venus
Aqua Relaxation Table
アクアヴィーナス V-2800
高齢者思いのデイサービス専用機種
理学療法機器開発に実績のある大島製作所が、高齢者特有のニーズに応える、デイサービス向け専用ウォーターリラクゼーション機を開発しました。
高齢者の方も安心「船酔い症状」を防ぐ揺動防止（縦波を抑える）構造。
●服を着たまま快適ウォーターリラクゼーション　●キャスターで移動できる軽量設計

Technology for Human
http://www.ooshima.me
本機は医療機器では有りません。
特長のあるサービス提供を検討されている在宅介護施設におすすめします。
理学療法機器
株式会社 大島製作所
●本　社／〒132-0031 東京都江戸川区松島1-21-7
■関西営業所／■名古屋営業所／■福岡営業所
お問い合わせ ☎03(3654)7205〈営業本部〉蓼沼(たてぬま)

夢食器 夢虹彩
RAINBOW
使いやすさを考えた思いやりの食器

高齢者特に脳卒中の方の今まで食べにくく、こぼしながら時間がかかっていた食事を解消しました。
有田焼の窯元で焼き上げた食べやすい、すくいやすい、こぼれにくい食器です。
介護自立支援 TABLE WARE
有田焼
夢食器レインボー

貰きます本当に役立つ福祉用具
アメックス熊本株式会社
〒862-0913　熊本市尾ノ上1丁目3-9
TEL 096-384-6565(代)　FAX 096-384-6594
http://www.amex-k.jp
いきいきショップレインボー